

「病院早わかり読本」

東京都病院協会教育倫理委員会委員長 飯田 修平 編集
財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院院長

日本医療機能評価機構専務理事

伊 賀 六 一

「病院早わかり読本」という題名のとおり、この本は、“医療（病院）とは何か”，わが国の“医療・福祉制度や費用の仕組み”，“医療の質の向上”，“患者の権利について”など，われわれが現在，そして将来に向けて医療福祉社会に生きるために必要な大切な問題を横断的に取り上げ，要点をわかりやすく解説している。しかも，医療に職を持つ人たちにとってはもちろん，医療を受ける人たちにも，日常出会う身近な問題，更には，めまぐるしく変化する医療社会の現状に遅れないための新しいテーマがきめ細かく選択されている。目次に目を通しただけでも，われわれが本来知っておくべきことなのに漠然としか把握していないようなことがらについて，この書が答えてくれることに気がつくはずである。

著者が日々の診療生活を通して“患者さんたちが何を望んでいるか”，あるいは“患者さんたちに何を知ってほしいか”，また医療に従事している人たちが“専門職として何を心得ておくべきか”，“何を知って

いなければならないか”を自らに問いかけ，自らが求めた答えを1人でも多くの人たちに知ってほしいという願いがこの書に込められているように思う。著者の言葉を借りるならば，まさしく“信頼と創造”の関係を，医療を提供する側と受ける側との相互の間に芽生えさせたいという心である。

そもそも“医”は人類の起源以来，人々が生きるために，あるいは生命を守るために欠かせないものとして自分たちの生活の中から生まれたものである。医学・医療が発展する過程で生命科学・環境科学として専門分化の道に踏み込み，政治，経済，社会の仕組みと密接に関わりを持つにつれて内容が高度になり，仕組みが複雑化し，医学・医療が本来意味するものから離れたところで一人歩きする社会になってしまった。これは医療に限ったことではなく，政治，経済，科学，そして宗教，倫理，教育など，現代のあらゆる社会に見られる現象である。

崩壊の危機感が漂う人間社会に命

を与えるには自らが創り出した文化・文明の果実に生命の息吹を吹き込む必要がある。

著者は医療人の1人として，あるいは人間の1人として現代の医療社会に灯をともし役割を自覚したに違いない。初版から今回の最新版に至る道程を知っている筆者には，著者のその心が伝わってくる。この書は“信頼と創造”を単に理念としてだけでなく，具体的に人々の生命・生活の質の中に呼び込むために，まず医療の専門性が関わる難しい問題をできるだけ咀嚼し，わかりやすく表現し，「病院早わかり読本」として世に問うたものである。

必要とする問題が生じた時々に，折に触れて書庫から取り出し，それを具体的に解く鍵として活用する座右の書として推薦したい。

● B5 頁132 色図27 2色チャート10 表27 1999
定価(本体1,800円+税) 円400

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)